

優勝



【第50回全日本大学サッカー選手権】
国士大との死闘を制しインカレ優勝

1回戦で仙台大を3-1で下し、2回戦で阪南大に総理大臣杯決勝の雪辱を果たすと準決勝も関西学院大に2-0と勝利し決勝へ。決勝はの相手は国士大。相馬崇志（現東京ヴェルディ）などのサイドアタックに苦しめられた駒大だったが後半、途中出場の中田洋介（現ベガルタ仙台）が先制点をあげると深井正樹（現鹿島アントラーズ）もゴール。国士大の反撃を1点におさえ4年ぶり3回目のタイトルを獲得した。なおMVPには深井が選ばれている



【第81回天皇杯】
深井がロスタイムに奇跡の同点ゴール

1、2回戦を順当に勝ち進んだ駒大は3回戦で翌年に完全制覇を成し遂げるジュビロ磐田と対戦した。前半は一進一退の攻防を展開し0-0で折り返す。後半、ジュビロは前田、西のゴールでプロの底力を見せる。しかし、深井のスーパーゴールで1点を返すと後半終了間際、163分の深井がバックヘッド。これがゴールに吸い込まれ同点。延長戦は「みんな足がつっていた」（三上卓哉・現京都パープルサンガ）という通り気持ちでジュビロを圧倒。しかし、延長後半にジュビロ藤田にPKを決められ駒大は敗戦を余儀なくされた。しかし、駒大サッカーがプロにも通用するそれが実証された試合でもあった。



【第75回関東大学リーグ】
最強軍団の期待は失望へ…
リーグ、大臣杯のタイトルを逃がす

昨年のメンバーがほとんど残り、中後、小林亮など有望な若手を加えて臨んだリーグ戦。優勝を狙うにふさわしい陣容が揃った駒大は前期、負けなしで2位とまずまずの成績を収める。しかし、総理大臣杯で惜しくも準優勝になってしまおうとそれを引きずるようになり4節戦って1勝2敗1分と完全に首位との勝ち点を広げられてしまう。ここで駒大はミーティングを開き気持ちを一つにする。「みなが言いたいことを言い合ったことでチームがひとつになった」（小林久晃・現モンテディオ山形）。続く東学大戦は5-1の完勝。首位戦線に踏みとどまるが次節の筑波大に3-4と惜しくも敗戦。初優勝の夢は惜しくも絶たれてしまった。そして、リーグ優勝することの難しさ、それをもたらして感じるシーズンとなった。

番外



【第80回高校サッカー選手権】
新入生たちが選手権を盛り上げる

この年、高校選手権で未来の駒大を支える選手たちが躍動した。現在エースの赤嶺真吾は鹿児島実業高校をベスト4に導き、自身も優秀選手に選ばれた（ちなみにチームメイトで1年後、駒大に入学する鹿実の柳崎祥兵が準決勝ゴールを決めている）。熊崎貴之は岐阜工をチーム初の準優勝に導いた。2回戦では丸岡高校 vs 大津高校の対戦があり鈴木亮平（写真左）、2年生だった榎原徹也（中央）対宮崎大志郎（右）という対戦も実現した。結果は宮崎のゴールで大津が丸岡をくだしている。榎原新伍は19年ぶりに出場した埼玉南で10番として出場。こちらも宮崎率いる大津に3回戦で敗れている。

優勝



【第26回総理大臣杯】
昨年の雪辱を晴らし見事5年ぶり3度目の優勝

関東選手権で5位に入り関東第五代表として臨んだ駒大は1、2回戦と順調に勝ち進み準決勝へ。準決勝の相手は高知大。想像以上の潜在能力をもった高知大に駒大は一時、1-2とリードされてしまうが小林亮、中後といった2年生の活躍もあり2年連続で決勝の舞台に立つ。決勝の相手は国士大。接戦が予想されたが深井の5人抜きゴールなどで5-2と駒大が勝利。昨年の悔しい敗戦を払拭する優勝となった。なお、駒大はこの大会で4試合16得点をあげている。

激突



【第82回天皇杯】
マリノスに死闘…
打倒Jの夢も未来に託す

この年も『打倒J』を目指して天皇杯3回戦まで順当に進んだ駒大。相手はなんとこの年、駒大サッカー部を退部した那須大亮（現横浜Fマリノス）が所属するマリノス。那須も出場したこの試合。深井のドリブルなどで決定機は作るもののチャンスを生かせず試合巧者のマリノスの術中にはまっていく。結果は0-3。結果ほどの差はなかったもののこれがプロとの差。「前半のいい時間帯に点がとれていれば…」と巻も悔しさを滲ませた。試合後、深井は「夢は後輩たちに託します」と語った。



【第51回全日本大学サッカー選手権】
準決勝103分の死闘
国士大に敗れ大学3冠の夢散る…

番外



【第81回高校サッカー選手権】
原一樹と巻佑樹が決勝の舞台で激突!

高校選手権決勝ではFW原（写真右から2番目）対DF巻（左から2番目）の対決が実現した。原率いる市立船橋高校に対して榎原（中央）率いる丸岡を初戦でくださった国見高校の対決。原、巻がマッチアップし火花を散らすなか、結果は1-0で市船が勝利。国見の3連覇を阻止した。新川真之介（右）率いる東福岡はベスト8で惜しくも敗れ、柳崎（左）の鹿実は2回戦で茨城の鹿島高校に敗れている。

優勝



【第78回関東大学サッカーリーグ】
志願のリーグ初制覇！
赤の歡喜が西が丘に吹き渡る

深井、巻誠一郎（現ジェフ市原）という駒大を象徴する2トップが4年生となり臨んだ2002年シーズン。リーグ戦は初戦・東学大に敗れるものの後は攻撃陣が爆発。前期を首位で折り返す。後期は総理大臣杯の優勝の勢いそのままに順当に6-0。青学大に4-1と順調に勝ち星を重ねていく。しかし、昨年同様やはりリーグ優勝はそんなに簡単なものではなかった。前期8-1と勝利した亜大にまさかの敗戦。上位陣との対戦でも苦手な東学大に敗戦。国士大には分けるのがやっとというところ。この時点で首位は筑波大。最終節、直接対決で勝利すれば優勝という駒大。死力を尽くした戦いはた田中信成（現ホンダFC）、橋本早十（現大宮アルディージャ）のゴールで駒大に軍配。駒大が悲願の初優勝を成し遂げた。